

地域研究会「上武国境山間地域の歴史と文化」

《シリーズ・上武国境地域の諸相 Vol. 1》

- ◆ 趣 旨：上武山間地域は、秩父山系北東部に位置する上武山地の高峻な山々に囲まれ、上野国南西部の武蔵国との国境に立地している。また、上武山地の中部には、現在の県境に沿うように神流川が東流しており、古くから山河に根付いた生活文化が育まれてきた。神流川流域は、上野国のみで完結した社会ではなく、神流川南岸から峠を越えれば秩父盆地に直結することから、常に上武の国境が意識され、秩父地方との人・モノの交流が活発に行われてきた。

中世末期には、国峰城の小幡氏、鉢形城の北条氏、そして武田氏がせめぎ合う境目と化し、領主が入り替わる中で山中衆という地縁的地侍集団が生まれ、黒沢氏は神流川流域の上武各地に点在して在地土豪化した。この地域が山中領と呼ばれるようになる近世には上武国境論争が勃発し、「峰切り(山境)」による国境が裁決された。

幕末期に上武世直し騒動の舞台となった当地域は、近代に至ると秩父事件が波及し、旧両国が連動するように運動が展開された。一方で、秩父弁に見る方言の類似性や神流川における川瀬神事が荒川流域でも行われている事例など、上武両国の深いつながりを示す文化・習俗が多数現存している。

本地域研究会では、自明視された県境を問い直し、地域の形成過程を同時代的に把握するために、隣接する秩父地方を包括した神流川流域の地域を「上武山間地域」と捉えて検討する。併せて、地元及び近県の歴史文化団体との連携と交流を深め、地域文化の向上と振興に寄与することを目的として開催する。

- ◆ 日 時：令和3年6月5日(土) 13:30～17:00

- ◆ 開催方法：オンライン(Zoomを利用)

- ◆ 主 催：群馬県地域文化研究協議会

- ◆ 共 催：共愛学園前橋国際大学

- ◆ 協 力：鉢形歴史研究会

- ◆ 対象・定員：会員・一般 定員80名

- ◆ 参加方法：① 令和3年6月3日(木)までに当会ホームページ(<http://gunmabunka.org/>)、または上掲 QR コードから参加申し込みフォームを開き、氏名・住所・メールアドレス等を入力して参加者登録を行ってください。

- ② 参加を承認した方には、後日会より「接続方法」・「参加上のルール」、及び「講演・報告資料」をメールでお送りします。当日はそれに従ってサインインして参加してください。

- ◆ 参加費：無 料

- ◆ プログラム・日程

開会挨拶／趣旨説明 (13:30～13:40)

研究報告 *各55分(報告40分+質疑15分)

- ① 「長尾景春の乱と秩父地域(仮)」 (13:40～14:35)

群馬県立歴史博物館主幹(学芸員) 森田 真一 氏

- ② 「上武国境地域南側の霊山と信仰 —31 番観音院と薄の薬師堂—(仮)」 (14:40～15:35)

放送大学非常勤講師・鉢形歴史研究会 高橋 稔 氏

- ③ 「縁起からみる野栗信仰の時代的変遷(仮)」 (15:40～16:35)

大阪大谷大学・園田学園女子大学非常勤講師 柏原 康人 氏

コメント／閉会挨拶 (16:40～17:00)



スマホ申込用 QR コード

【問い合わせ】 gunmabunka@gmail.com

- ◎ 協力団体関連情報

鉢形歴史研究会・第4回調査研究発表会「古文書から見えてきた鉢形領を支えた人びと」

【日 時】2021年12月12日(日) 10:00～16:30 【会 場】埼玉県秩父市 秩父宮記念市民会館ホール

【参加費】資料代500円 希望者には資料集・解説集の別途有償頒布あり

【問い合わせ】事務局・富田靖雄 電話:090-1996-9535